

国語科学習指導案

三次市立神杉小学校 教諭 藤本 勝治

- 1 日 時 平成23年 1 月21日(金) 第 4 校時
2 場 所 三次市立神杉小学校 3 年教室
3 学 年 第 3 学年
4 単元名 斎藤隆介の世界へようこそ！斎藤隆介からのメッセージについて交流しよう！
〔主教材：『モチモチの木』 斎藤 隆介 (光村図書 平成16年度版 3 年下)〕
〔副教材：『花さき山』『八郎』『火の鳥』〕

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語(平成20年)における第 3 学年及び第 4 学年の「C 読むこと」の指導事項オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を受け、文章を読んで考えまとめたことを発表し合う中で、互いの感じ方や考え方を認め合うだけでなく、その違いに気付くことを目的とする。

本教材の『モチモチの木』は、おくびょうな豆太が、「勇気のある子ども」だけが見ることのできる「モチモチの木」の灯りを見ることができる物語である。主人公である豆太が様々な視点から描かれ、その結果、おくびょうな豆太、勇気がある豆太、やさしい豆太など様々な人物像が浮かび上がる。斎藤隆介は豆太を通して自分の考える勇気ややさしさを読者に伝え、それに対して読者は自分なりの考えをもつことができる。本単元で取り上げる、斎藤隆介の他の作品『花さき山』『八郎』『火の鳥』も同様である。よって、本単元は、互いの感じ方の違いについて気付くことに適した単元である。

(2) 児童観

これまでの私の授業において、文学的な文章を読んで感想をもち発表することができる児童は多くいた。例えば、『三年とうげ』の学習において、児童は、「おじいさんがトルトリの言葉を聞くことで、急に元気に変わっていったところがおもしろい。」という感想を述べることができた。しかし、叙述と自分がもっている知識や経験、特に読書体験などに関連付けて、どのように感じたり考えたりして感想をもつようになったかについて発表したりその違いに気付いたりする児童は少なかった。

(3) 指導観

「一人一人の感じ方について違いのあることに気付く」ことがようにするため、次の点に留意して指導する。

一点目は、自分の感想を明確にする場を設定することである。教材を読んで感想を述べるためには、まず、自分の感想を明確にもつことが必要である。そこで、考えたことや感じたことを明らかにした上で、それはどの叙述を基にしたか、自分のどのような経験と関連付けたかをワークシートにまとめる場を設ける。

二点目は、感想を述べ合う場を設定することである。児童が感想をもつに至った過程について明確に述べていない場合は、なぜそのような感想をもつようになったか、具体的には、どの叙述を基にしたか、自分のどのような経験と関連付けたかについても述べるよう指示する。これによって、自分の感想が友達の感想とどのようなところが同じか違うかという視点をもって感想を述べ合うことができると考える。

6 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- 進んで作品を読み、感じたことや考えたことを発表し合ったり書いたりしようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。
(C 読むことウ)

- ◎ 文章を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。(C読むことオ)
- 言葉には、感じたことや考えたことを表す働きがあることに気付くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア))

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
○ 進んで作品を読み、感じたことや考えたことを発表し合ったり書いたりしている。	○ 感想を交流するために、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像しながら読んでいる。 ○ 作品を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。	○ 言葉には、感じたことや考えたことを表す働きがあることに気付いている。

7 単元の指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習の活動	評 価				評価方法
			関	読	言	評価規準	
一	1	・『モチモチの木』を通読する。 ・単元の終末に斎藤隆介が作品を通して伝えたいこと(勇気)について交流することを知り、学習計画を立てる。	○	◎		◎場面の移り変わりに注意しながら読んでいる。 ○斎藤隆介の作品に興味をもち、進んで学習しようとしている。	発言 ワークシート
	2	・『モチモチの木』の内容の大体をとらえる。		◎		◎時間や場所、登場人物の行動や会話、出来事、情景や場面の様子の変化など、物語の基本的な構成要素をとらえている。	発言 書き込みシート
	3	・叙述を基に、豆太の性格について考える。(本時)		◎	○	◎行動や会話に即して登場人物の性格をとらえている。 ○言葉には、感じたことや考えたことを表す働きがあることに気付いている。	発言 ワークシート
二	1	・斎藤隆介の作品から勇気のある主人公を見つけて感想をもつ。		◎	○	◎斎藤隆介の作品から見つけた勇気のある主人公について、叙述と自分の経験などを結び付けながら感想をもっている。 ○言葉には、感じたことや考えたことを表す働きがあることに気付いている。	発言 書き込みシート ワークシート
	2	・斎藤隆介が作品を通して伝えたいこと(勇気)について感想を述べ合う。	○	◎		◎一人一人の感じ方や考え方の違いに気付いている。 ○斎藤隆介が作品を通して伝えたい勇気について進んで感想を述べ合おうとしている。	発言 ワークシート

8 本時の学習

(1) 本時の目標

豆太の性格について、叙述と自分の経験などを結び付けてまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

◎豆太の性格について叙述を基に、自分の経験などと結び付けてまとめている。【読む能力】

○自分の思ったことや考えたことを適切に表すために、言葉を選んでいる。

【言語に関する知識・理解・技能】

(3) 本時の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)								
1 前時の学習を想起し、本時の学習課題を知る。 豆太の性格について、叙述を基に考えよう。 2 全文を音読し、豆太の性格についてワークシートにまとめる。 〈まとめる視点〉 ・豆太はどのような性格の子どもか。 ・どの叙述を基にしたか。 ・豆太と自分とを比べて思うこと。 3 豆太の性格についてまとめたことを交流する。 ○ 自分でまとめたことを出し合い、豆太の性格を叙述を基に交流する。 <table><tr><th>〈予想される 豆太の性格〉</th><th>〈着目させたい叙述〉</th></tr><tr><td> ・おくびょうな ・弱虫 ・甘えんぼう </td><td> ・夜中には、じさまについて行ってもらえないと、一人ではしょうべんもできない。 ・昼間はいばってさいそくするけれど夜はじさまが「シイーツ」と言わなければ、しょうべんができない。 ・夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしてしまう。 ・こわくてびっくりして、とびついた。 </td></tr><tr><td> ・勇気のある ・じさま思い ・優しい </td><td> ・表戸を体でふっとばし、ねまきのまま、はだしで、半道もあるふもとの村まで、走り出した。 ・足から血が出て、痛くて、寒くて、こわくても泣き泣き走った。 ・自分と暮らしているたった一人の大好きなじさまの死んでしまうほうがこわかったから泣き泣きふもとの医者様へ走った。 ・モチモチの木に灯がついているのを見た。 </td></tr><tr><td> ・勇気があるけどおくびょう ・いつもは弱虫だけど勇気が出せる </td><td> ・夜中に一人でしょうべんもできない豆太だけど、じさまがはらいたで死にそうになったときは、一人で、暗くて寒い夜道を半道もあるふもとの村まで、医者様を呼びに走った。 </td></tr></table> 4 交流したことを基に、豆太の人物像についてまとめ直す。 5 本時の学習を振り返り、次時の学習課題を知る。	〈予想される 豆太の性格〉	〈着目させたい叙述〉	・おくびょうな ・弱虫 ・甘えんぼう	・夜中には、じさまについて行ってもらえないと、一人ではしょうべんもできない。 ・昼間はいばってさいそくするけれど夜はじさまが「シイーツ」と言わなければ、しょうべんができない。 ・夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしてしまう。 ・こわくてびっくりして、とびついた。	・勇気のある ・じさま思い ・優しい	・表戸を体でふっとばし、ねまきのまま、はだしで、半道もあるふもとの村まで、走り出した。 ・足から血が出て、痛くて、寒くて、こわくても泣き泣き走った。 ・自分と暮らしているたった一人の大好きなじさまの死んでしまうほうがこわかったから泣き泣きふもとの医者様へ走った。 ・モチモチの木に灯がついているのを見た。	・勇気があるけどおくびょう ・いつもは弱虫だけど勇気が出せる	・夜中に一人でしょうべんもできない豆太だけど、じさまがはらいたで死にそうになったときは、一人で、暗くて寒い夜道を半道もあるふもとの村まで、医者様を呼びに走った。	○挿絵を並べ替えて、物語の内容の大体を確認する。 ○豆太の性格について考えながら音読するよう指示する。 ○前時までの書き込みシートを参考にしながら、自分の経験や読書体験と結び付けて豆太の性格をまとめるように助言する。 ○交流を深めるために、児童の考えを大きく三つに分けて板書し、発表している児童がどの立場からどの叙述に基づいて述べているかを明確にする。 ○語り手の言葉だけで豆太の性格をとらえている児童には、豆太の行動や会話に着目するように助言する。 ○友達の見解とかかわらせながら、発表するように助言する。 ○豆太は弱虫のところもあるが、大好きな人のためには行動できる勇気や強さをもっていることをとらえさせるために、物語の展開を確認するとともに、結末の文章を取り上げる。 ○ワークシートにまとめ直すことが難しい児童には、板書を参考にするよう助言する。 ○他の作品の人物像を基に斎藤隆介が読者に伝えたいことについてまとめ、交流することを知らせる。	自分の思ったことや考えたことを適切に表すために、言葉を選んでいる。(発言) 豆太の性格について叙述を基に、自分の経験などと結び付けてまとめている。(ワークシート)
〈予想される 豆太の性格〉	〈着目させたい叙述〉									
・おくびょうな ・弱虫 ・甘えんぼう	・夜中には、じさまについて行ってもらえないと、一人ではしょうべんもできない。 ・昼間はいばってさいそくするけれど夜はじさまが「シイーツ」と言わなければ、しょうべんができない。 ・夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしてしまう。 ・こわくてびっくりして、とびついた。									
・勇気のある ・じさま思い ・優しい	・表戸を体でふっとばし、ねまきのまま、はだしで、半道もあるふもとの村まで、走り出した。 ・足から血が出て、痛くて、寒くて、こわくても泣き泣き走った。 ・自分と暮らしているたった一人の大好きなじさまの死んでしまうほうがこわかったから泣き泣きふもとの医者様へ走った。 ・モチモチの木に灯がついているのを見た。									
・勇気があるけどおくびょう ・いつもは弱虫だけど勇気が出せる	・夜中に一人でしょうべんもできない豆太だけど、じさまがはらいたで死にそうになったときは、一人で、暗くて寒い夜道を半道もあるふもとの村まで、医者様を呼びに走った。									

